レッスン：21"A"

テーマ：善と悪の意味

GOOD21A.EN.DOC.AEN

私の兄弟・姉妹達よ、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に主なる神、絶対、神の聖性の中にいます。

今日、私達は善と悪の意味について話します。なぜ意味と言うかというと、実際には善も悪もないからです。それらは意味にすぎません。絶対のリアリティーにおいては絶対善のみが存在します。

　　絶対善は対極の世界にはありません。私達は悪と言うと、すぐさま善を考えます。そして善および悪の様々な程度を見ます。絶対善には程度の差はなく、それは絶対です。

　　ですから、分離の世界（複数）、Lifeの現象界（複数）があり、そこでは意味があります。

そこでは善と悪に意味があります。

しかし、意味を越えた所、絶対のリアリティーにおいては絶対善（All-Goodness)があり、そこには対立するものがありません。なぜなら、それは意味ではなく、聖なる実相、リアリティーだからです。

　　もし私達が神と対立するものとして、いわゆる悪霊あるいは悪魔としてのサタンを受け入れると、宇宙において二つの対立するエレメント、二つの対立する神を見ることになります。私達の最愛のイエスが現象と意味の世界を訪れる以前、絶対性としての絶対善と意味としての様々な善悪のレベルを折衷させることができなかった諸宗教がありました。その結果、人々は神を創造したのですが（特にペルシャにおいて）、弱体化した時にそこから悪のスピリットが誕生し、それゆえに絶対善に弱さと無能力が賦与されたのです。

それはメソポタミアの古代宗教でした。他の宗教がその意味から影響を受けたか否かはわかりません、なぜなら彼等はそれを超えたところにある実相、リアリティーを見る、つまり把握することができなかったからです。

　　しかし、キリスト教徒としての私達は物事をそのように見ることはできません。絶対存在を弱さを持つ神としてみることはできません。そのような神は弱っていた時に悪という二番目のセルフを誕生させたのです。もしそうなら、絶対存在を絶対善、絶対パワー、絶対英知として特徴づけることはできません。

さて、諸宇宙、創造界における悪の目的について尋ねる人がいるかもしれません。

繰り返します：悪は存在しません。悪の意味が存在するだけであり、それは分離の世界においては必要な意味なのです。しかし、全体としての世界においては、そのような意味は存在せず、一つの実相つまりリアリティーとしての、真理・Life、絶対善のみが存在するのです。

従って、繰り返しますが、善と悪の意味は意味の世界、分離の世界にのみ存在します。つまり、物質界、あなたの周囲にある世界です。

　　サイキカル界（複数）では、善と悪の意味はあなたにサイキカル界の地獄と天国を提供しています。

同様に、低次ノエティカル界（複数）では、善と悪の意味は同じように地獄と天国の意味をあなたに提供しています。ですから、意味としての善と悪は、私達がいるポジションに関係する相互作用地点において、外から受け取る時間・空間の印象を超えものとして受け取られ、解釈され、形成されるのです。

Page2

このポイントについて説明しましょう。生きている実体として私達が置かれているポジションは、私達に地上的利益と認識を与えています。私達の利益と対立するものは全て、それが物質界、サイキカル界、さらにノエティカル界であろうとも、悪という意味を私達に与えます。私達の利益に合うものは全て善という意味を与えますが、これは人間の低次の理解レベルにおいて特に当てはまります。当然、人間は後になると、この枠組みの中に自分が愛する人々および同胞の人々の利益をも含むようになり、異なった光のもとで善と悪の意味を見るようになります。しかし、それでもそれは非常に狭い認識の中に留まっています。

　それでは、意味についてもう少し深く見ていきましょう。意味は全ての人間が同じように理解しているわけではありません。特定の時点に、時間・空間における経験を通じてその人が到達した理解レベルにおいて、意味は理解されます。それ故、善と悪の意味は相似的です。

　悪い人間もいなければ、良い人間もいません。不完全な実体として分離の世界に生きている人間がいるだけです。人間は経験と印象を受け取るという主要な目的を有しており、真理の知識によって無知の束縛から解放されるようになります。従って、良い人間とか悪い人間というものはありません。聖なるモナドとしての霊的存在(Holy Monad Spirit Being) としての全ての人間のインナーセルフは、本質として絶対善を有しています。

　　魂のセルフ・エピグノーシスとしての、聖なるモナド・セルフ（Holy Monad Self)及び同胞の人間全てのセルフの投射は、聖なる絶対善、絶対パワー、絶対英知という特徴を有しています。時間・空間の物質界・サイキカル界・ノエティカル界におけるこの投射は死を免れることはできません。

　　繰り返しますが、

パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスを善あるいは悪と見なすことはできません。それは暗やみと無知の世界に生きている実体としてのみ見ることができ、光の中に入るために、魂のセルフ・エピグノーシスの助けによって闇と無知を克服し、支配することを学ぶべき存在です。

パーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスとしての実体は過ちを犯し、賢くまたは愚かに振る舞い、時には完全性あるいは不完全性を表現しますが、それらはその経験によります。恐怖、弱さ、不完全性から自由になるまでは、それらの中で生きるのです。それらから自由になると、善悪の意味が時間・空間の現象、時間・空間という海の表面における波以上の重要性を持たない現象として理解されるようになります。

真理の探究者であるあなたは、周囲に善あるいは悪を見ることがなくなるでしょう。

罰を求めることも、またいわゆる善に対して報償を求めることもなくなります。同胞の人間がその弱点を克服し、時間・空間の世界において経験を通じて何かを学ぶのを見ると、喜びます。

繰り返します：あなたは同胞の人間を善あるいは悪として見なくなり、代わりに成長しようとしている人間として見るようになるでしょう。同胞の人間もあなたと同じ道を歩んでいるのです。彼の歩みはあなたの歩みと同じであり、彼の両足はあなたの両足と同様に人生を登っていくのに疲れているのです。

最愛の人（＊イエス）は、自分が裁かれないように他人を裁くな（＊他人を裁くことは自分を裁くことである）、と述べました。あなたがいる時間・空間の世界ではあなたは悪人を見ることはできません。なぜなら、あなたは同じ状況によって影響を受けているからです。あなたが同じような状況・環境において、悪人と同じように振る舞う危険性がないと言うことはできません。ですから、悪も善も、時間・空間の中で、成長の様々な段階にある実体の行為として見るようになるのです。私達は悪を無視し、それを許し、それを見る時悲しむのです。病気の人間を見ると悲しむのと同じように。

　　愛する人が病気に罹っているのを見て、その人に怒る人がいるでしょうか？当然、あなたはそのような状況を受け入れるべきか否か、そのような不幸に耐えるべきか否かと問うでしょう。

　　悪とは実相つまりリアリティーについての無知の現象であり、成長過程にある様々な実体の不完全な行為です。勿論、私達は病気を無視するわけではありません。必要な場合には医師と同様にそれに対処し、癒し、戦います。

　そうです、私達は病気それ自体と戦います。しかし、私達は病人を抱擁します。なぜなら、病人は私達の愛、癒し、注意をもっと必要としているからです。

もし私達自身が病気に罹っていないことが確かであれば、私達は病人の面倒を見て、癒します。同胞の目の中にあるトゲを見ないようにし、私達自身の目の中にある竿を無視しましょう。そうです、私達は病気を望まず、病気とそれに伴う否定的結果を全て除去することを望みます。私達はそれをそのパーソナリティーの病気と見、それに対してできるかぎり戦います。しかし、私達は同胞を愛し、病人をさらに愛し、私達は病人を愛し、助けるべきです。

　　私達は窃盗を受け入れません。しかし、私達の兄弟を泥棒と呼ばないように注意しなければなりません。状況をよく調べて、彼が本当に泥棒なのかどうか見てみましょう。もし、彼が泥棒であるなら、彼を私達の思いやり、許し、愛を必要としている病人として見ましょう。さて、最愛の人（＊イエス）が地上におられた時の行為を理解できますか？イエスはどこにも悪を見ることはせず、ただ不完全性のみを取り除こうとしたのです。

　　最愛の人は悪を見ず、不完全性を見たのです。弱さを見たのです。

弟子達、および彼が愛したもの、つまり世界全体から取り去りたかったのはこの弱さ（＊弱点、欠点）だったのです。

　　どのようにして？病気を表現するパーソナリティーと戦うことによって？違います、そのような戦いは偽善です。恐らく、そうすればそれにより注意を注ぐことによって、病気はさらに強まるでしょう。そのような場合、それに注目し、烙印を押し、戦うよりもむしろ無視する方が好ましいでしょう。誘惑に入り込まないように気を配り、祈ることがアドバイスです。悪の意味のほかに何があるでしょうか？

真理の探究者として、あなたが自己省察、つまりエンドスコピシスをスタートしたら、あなた自身と他人を同じポジションに置くべきであり、一つは自分用、もう一つは他人用という二つの物差しを使用すべきではない、と決意する必要があります。

　　省察においては、あなた自身および他人に対しても厳しく責めてはなりません。

それはどのような目的にも役立ちません。むしろ、あなたの行為および他人の行為について真剣に観察し、状況を考察し、そのような特定の行為を招いた原因を追及するべきです。同じような状況下におけるあなたの行為と他人の行為を比較すれば、あなたはより正確に判断できるようになるでしょう。

もし相手の人間の立場に立って考えてみることをせず、あるいは相手がそのように行動した状況について考察するまでは、決して批判してはいけません。同胞を簡単に判断したり、批判したり、罰するのは軽薄な行為です。真理の探究者としては、軽薄かつ同時に真剣であるということはありえません。

**ですから、私達は善および悪の意味を無視し、サイコノエティカル的な成長に役立つ限りにおいて、周囲の人間の行為に注意を払うようにします。**

私達は出来るかぎり意味から離れるように努力し、原因を見るようにします。原因の中において私達は善あるいは悪の原因、根源を見ることができ、まさにその根源において私達はいわゆる悪を止めて、善と呼ばれるより良い質を育てようとすべきなのです。

あなたが社会の中で探求、考察すると、善と悪はひとつ、同じ行為の中に融合していることがわかるでしょう。それらについて注意深く見ると、それらの結果は注意深く考察されていなかった原因によるものであることがわかるようになります。様々な原因を作りだして、このように又はあのように振る舞う人々は状況の犠牲者であるか、あるいは同胞の人間が見なすように、それより悪い状況に陥るという不運に会わなかった、という意味では幸運なのです。彼らはそれ以前の経験の結果として、原因・結果の法則の下にあると言うこともできるでしょう。

真理の探究者は、人間が人生の途上で遭遇する困難について、その困難が雑草としてその人の潜在意識に存在する過去の過ちによるものであっても、それを過小評価することはせず、またそれらの雑草を引き抜く必要があることを知って怯えてしまうこともありません。真理の探究者は、その場所に果実をもたらすような種類の、品質の優れた種を蒔くことができるのを知っています。

　　さて、探究者は自分で道を知っているので、このようなアプローチの仕方を愛する人々に、そして助けるべき周囲の人々に広めることが義務となります。そうすることは、同胞の人間および自分自身のサイキカルな成長を全般的に高めるのに役立ちます。

　　真理の探究者には悪を批判したり、いわゆる善と呼ばれるものを称賛する時間はないのです。私達は悪も善も批判すべきではありません。私達は悪を咎めるべきではありません。それを無視し、善でもってそれを置き換えようとすべきです。善もまた称賛すべきではありません。なぜなら、それはそうすることを期待されていたものであり、当然そうすべきであった何かに対して褒美を与える必要はないからです。

　　称賛はその究極の目的が、弱い人々に何らかの力を与えて、前進する勇気を持つように刺激する場合以外は、称賛は余分なものであることに注意してください。私達はそのように見なしています。もし褒めることが小さな子供に以前よりも良いことをするよう勇気づける方法であると考えるなら、それは弱さ、無邪気なエゴを利用することになります。そうではありませんか？もし褒めることを手段と考えるなら、私達は必要な時のみそれを利用することになります。しかし、義務として行うべき何か、誰もが当然やるべきことに対して称賛を求めてはなりません。

とりわけ、あなたは同胞の人間を侮辱してはいけません。なぜなら、そうすることによって悪い状況に注意と想念エネルギーを向けることになり、状況を一層悪化させるからです。

真理の探究者には軽蔑、侮辱は必要ありません。同胞の人間に対する侮辱は偽善と同じか、あるいは自分自身の似たような過ちや弱点を同胞の人間から隠そうとするのと同じです。

　　真理の探究者は非常に注意深く探求する必要があり、社会における彼の行動は善の光のもとにおける論理的探求、正しい思考の結果であるべきで、絶えず神の絶対善の境界に近づこうとすべきです。従って、絶対善は分離の世界、意味の世界における意味ではなく、つまり、善悪の意味ではありません。このレッスンについて深く考察し、正しい思考に向けて自己省察、エンドスコピーシスのプロセスを始めてください。

私達は常に神、絶対、神の聖性の中に抱かれています。

EREVNA/GOOD21A/ENA/DOC 21A/4END.

れは、スタートとして、Lifeの現象界における私達の舞台と場面を体験する機会のためなのです。

　　宇宙は神の絶対愛によって築かれ、維持されているので、悪という属性はどこにも存在しません。

従って、悪という低次のものを除去して洗い流すという探求は、私達自身のいまだ不純なハートにおいて行なわれる必要があります。私達自身の理解レベルは、ハイヤーセルフから遊離し、神の意志を全く表現しない仕方で自分の自由意志を行使しています。息子は父と同じサブスタンスで創られており、神の意志を表現しているべきなのです。もしそうでないとしたら、それは時間・空間的セルフが誤って物質的なものに魅せられてしまい、インナーセルフの聖なる源を忘れてしまったからなのです。

恐らく、人間は自分の自由意志を用いてしばらくの間は悪と戯れるように、あらかじめ定められているのかもしれません。しかし、それは一時的なものであり、最終的には梯子を発見して、その梯子の数多くの段を昇っていき、自己実現、インナーセルフおよび魂のセルフ・エピグノーシスとの同化へと至るように定められているのです。私達自身が絶対リアリティーになるまでは、私達は絶対リアリティーに達することは不可能であり、それゆえ、存在（Beingness)の段階においても、さらに上に上昇する動きがあるのです。

　　いかにしてこの絶対リアリティーになるのか、そして進化の梯子に向かう第一歩をどのように踏み出すのか、という質問に戻りましょう。前に、私達の認識が大きいほど、私達を通過する光も大きくなると述べました。ですから、私達が今やるべきことは私達の認識を取り扱うことであるようです。私達の認識を取り扱うためには、現在のパーソナリティーを取り扱い、現在のパーソナリティーを成長させてインナーセルフと同化するための方法を見出す必要があります。現在のパーソナリティーを成長させるためには、それが現わされている手段について考察しなければなりません。その現れの手段とは、現在のパーソナリティーの三つの体です。

私達には肉体がありますが、勿論それが現在のパーソナリティー全体ではありません。現在のパーソナリティーには考え、行動する仕方があり、それゆえ私達には行為のセンター、そして感情・気持のセンターであるサイキカル体があるのです。私達にはさらに思考のセンターであるもう一つの体があり、それはノエティカル体と呼ばれています。ですから、現在のパーソナリティーとして私達には三つの体があり、より高い気づきに到達するためには、これら三つの体を取り扱う必要があるのです。

繰り返しになりますが、これら三つの体はインナーセルフ、魂のエピグノーシス、永遠のパーソナリティーによって現在のパーソナリティーに与えられたものであり、それらは肉体との関係ではハートのセンターに根付いている、あるいは基盤をおいています。それらは不定形な体であり、特定の形を持っていないので、それらを肉体の形に似せて形づくる必要があります。それらの不定形な体は肉体、サイキカル体、あるいはノエティカル体とは呼ばれず、それぞれ永遠のアトムと呼ばれています。三つの永遠のアトムは、一つは肉体の、一つはサイキカル体の、もう一つはノエティカル体のためです。

Page5

無知の中に生きている人間にとって、この３次元での思考、行動、表現のセンターはハートのセンターに根ざしています。真理の探究者として、目的はこられの不定形な諸体に形を与えることです。無知に生きている全ての人間はここから、ハートのこのポイントから考え、行動します。全ての想念、思考には気持、感情が込められています。そのために、エレメンタルの創造において、それらが想念的欲望ではなく、欲望的想念という特徴を帯びているのです。なぜなら、思考のセンターでさえこのポイントにあるからです。このハートのセンターは欲望のセンター、サイキカル体のセンターであり、そうあるべきです。それはノエティカル体のセンターではありません。しかし、しばらくの間、つまり人間が無知の中で行動している間は、ノエティカル体は頭ではなくハートに根付いているのです。学びを通じて、知識を通じて、自己省察を通じて、自己分析を通じて、エクササイズを通じて、与え・提供するという実習を通じて、私達はこれらの体に形を与え始めるのです。それらに体を与えることによって、不定形な体のセンターは肉体上の本来のポジションに移動し、そこに属するようになります。

　　永遠のアトムとしてのノエティカル体は頭のセンターに移動し、肉体の永遠のアトムは太陽神経叢に対応するそれ自身のセンターに移動します。そうなるためには私達が多くのことを成し遂げる必要がありますが、その結果、自己実現に到達したバランスの取れたパーソナリティーが確立されます。私達がこれらの体を肉体とは別の体として使用し、エクソマトーシス（＊意識を保ったまま幽体離脱すること）ができるようになるためには、これらの体、これらの現れの領域を支配、マスターする必要があります。

　　真理の探究者、真剣に真理を求める探求者にとって、これこそが光に奉仕、神に奉仕できるようになるための唯一の方法、唯一の正しい適切な方法です。

さて、不定形な体にいかにして形を与え、それを完全なものとするか、という質問に戻ります。進化を通じてそれを伝え、一定の気づきのレベルに到達してそれが経験的知識となった人からあなたに与えられる知識、を通じて達成されるでしょう。

　　勿論、その知識を得ただけでは不十分です。それが実行されなければなりません。知識それ自体はとても危険なものとなり得ます、個人のエゴを増長させる可能性があり、進化を抑制する要因となる以外にはいかなる目的にも役立ちません。適切な瞑想、自己分析、自己省察、そしてサイコノエティカルなエクササイズを伴う必要があります。他人に奉仕するというエクササイズです。

実際、さらに多くの愛を表現すること以外に、より良いセルフによって私達は一体何を表現したいというのでしょうか？では、愛を誰に表現するのでしょう？勿論、愛を必要としている人に与えるのです。そして、無知、悪、意地悪と言われる人々以外に、誰が愛を必要としているでしょうか？

実際、良い人々は私達の愛を必要としていません。悪とみなされる人々こそ、彼らが無知から解放されるのを助けるために、私達はもっと愛で包む必要があるのです。これは彼らの表現（＊行為）、彼等の病的な行動を受け入れるという意味ではありません。しかし、そのような病的な状態に苦しんでいる人間として、例え彼ら自身はそれに気づいていなくても、彼らは私達の愛を必要としているのです。無知に囲まれたセルフが自由になり、それ自身に魅せられたセルフが自由になって、愛の真の表現以外の何ものでもないインナーセルフが現れ出るようになるために、彼らは助けを必要としているのです。

真理の探求者は熱意をもって助け、そうするに当たって非常に注意深くある必要があります。間違ったアプローチをして否定的結果を招かないようにするためです。真理の探究者には基本的な動機として、同胞の人間を助けるという願望があります。真理の探究者は必要としている人々を愛、理解、忍耐で包みます。時には、あなたは理解してもらうために彼らのレベルまで自分自身を下げる必要があります。彼らがあなたの意味を理解し、従い、模範を見てそれを見習うために、あなたは同じ言葉を話す必要があるかもしれません。子供と同じように、人間はしばしば従うための模範を必要とします。その模範は達成可能なものでなければなりません。彼らの言動のどこが間違っているかを示すのではなく、正しい言動とは何かを示します。なぜなら、間違っていることを示すと、彼らの間違った言動にさらにエネルギーを注ぐことになるからです。特に他人の前で非難してはいけません。そのような行為を見たら、得点を得ようとしているという印象を相手に与えることなく、むしろあなたの本質の現れとして彼らに愛を示す必要があります。そのような時、あなたが示す模範が彼らに受け入れられ始め、恐らく真似されるようになるでしょう。

Page6

あなたは寛容でなければならず、いかなる形であれ我慢できない、あるいは彼らの行為が不快であるという気持を示してはなりません。そうできるようになるには、否定的な波動を発することのないよう、多大な強さが求められます。しかし、実践すれば、時間と共に成功するようになるでしょう。それが唯一の道であり、近道はありません。

同時に、彼らがあなたのレベルに到達していないからといって、彼らを見下すことのないよう、非常に注意する必要があります。人間は安心する必要があり、愛と思いやりに抱かれていると感じる必要があるのです。人間はその学歴や地位に関らず、誰かから、特にその見解と誠実性を尊敬し、高く評価しているような人から保証され、受け入れられることを求めているのです。多くの忍耐と働きが必要となります。何年も、時には生涯という時間がかかるかもしれません。しかし、私達が愛で包むのは主なる神、内側から現れるのを許されていない（＊神としての）パーソナリティーであることを覚えておかねばなりません。

イエス・キリストは弟子達に向かって、弟子達が空腹で、喉が渇き、孤独な彼を見ている時、彼らは主を無視していると語りました。弟子達は、主をそのように扱ったことは決してないと抗議したのですが、イエス・キリストは、弟子達はそのような多くの人々に出会っており、そのような人々は本当は主であると答えたのです。ですから、神の意志によって生きている人は誰でも生まれた時の宗教が何であれ、神に奉仕しているのです。前に述べたように、私達がいわゆる悪あるいは善のいずれに奉仕しているのであれ、また私達が光あるいは闇のいずれに奉仕しているのであれ、私達は常に主なる神を使っているのです。最も重要なのは、いわゆる善あるいは悪と呼ばれるものの背後にある動機、特に善の背後にある動機です。

多くの人々、多くの組織、政府さえもが他のために良いことをしています。しかし、一見それがどれほど思いやりがあるように見えても、背後にある本当の動機はそれほど純粋ではありません。このことは特に国が関る場合、あるいは大義が掲げられる場合に明らかです。正義という名目の下で、平和という名目の下で、実際には建設的でなく、愛に基づいていないことが謀られています。同じことが、一見非常に高貴に見える人間の動機についても当てはまります。結果は祝福できるかもしれませんが、その行為の背後の動機は祝福できるほど高貴ではありません。そのような人にはプラスではなくマイナスの点が与えられます。

あなたはこのことを常に心に留めておかねばなりません。私達は全員が、Lifeの現象界という舞台に立っている役者なのです。そして、役者が優秀であればある程、その背後にある動機を判断するのがそれだけ困難になるのです。

私達は常に主なる神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/GOOD22A/EN/AEN/ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　22A/6END